

第1号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策計画書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 〒108-0014  
 住 所 東京都港区芝四丁目14番1号  
 氏 名 日本ポリエチレン株式会社 印  
 代表取締役社長 村上 永一

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第9条第1項(同条第4項において読み替えて準用する場合を含む。)の規定により、次のとおり提出します。

|                     |  |                     |                     |
|---------------------|--|---------------------|---------------------|
| 事業者の氏名<br>又は名称      | 日本ポリエチレン株式会社   |                     |                     |
| 主たる事務所又は<br>事業所の所在地 | 川崎市川崎区千鳥町3番1号  |                     |                     |
| 該当する事業者<br>の要       | <input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者        |                     |                     |
|                     | <input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者                   |                     |                     |
|                     | <input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者                   |                     |                     |
|                     | <input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者                   |                     |                     |
|                     | <input type="checkbox"/> 上記以外の事業者(任意提出事業者)               |                     |                     |
| 主たる事業<br>の業種        | 大分類  | E                   | 製造業                 |
|                     | 中分類  | 16                  | 化学工業                |
| 主たる事業<br>の内容        | プラスチック製造業  |                     |                     |
| 事業者の規模              | <input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量         | 67,137 k l          |                     |
|                     | <input type="checkbox"/> 自動車の台数                          | 台                   |                     |
|                     | <input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素<br>以外の温室効果ガスの排出の量 | t - CO <sub>2</sub> |                     |
| 連絡先                 | 担当部署   | 担 当 部 署 名           | 日本ポリエチレン川崎工場 管理グループ |
|                     |  | 所 在 地               | 川崎市川崎区千鳥町3番1号       |
|                     |  | 電話番号                | 044-280-5235        |
|                     |  | FAX番号               | 044-280-5288        |
|                     |  | メールアドレス             |                     |
| 受付欄                 |  | 事業者番号               |                     |
|                     |  | 特記事項                |                     |

(第2面)

| 計 画 期 間                            | 平成22年度 ~ 平成24年度   |
|------------------------------------|---|
| 温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針           | 別添 指針様式第1号及び第3号のとおり   |
| 温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制             | 別添 指針様式第1号及び第3号のとおり   |
| 温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量      | 別添 指針様式第1号及び第3号のとおり   |
| 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項 | 工場の対応として、省エネ関係の設備投資案件導入(例:変圧器更新時には高効率型へ更新実施)、照明、スチームトラップタイプ変更による排出量の削減。更に、事務所でも昼休み間の照明切りでの省エネ活動中<br>詳細は、指針様式第1号(第4面)のとおり                                  |
| 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項      | 船・鉄道輸送拡大(モーダルシフト)による輸送単量アップによるCO2削減実施中<br>詳細は、指針様式第1号(第6面)のとおり  |
| その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項             | ・事業者として、地球温暖化対策に向けた経団連の自主行動計画の一環として、日本化学工業協会(日化協)を中心とする化学業界の自主行動計画に参加<br>・川崎市エコ運搬制度による環境負荷低減への取組み実施<br>詳細は、指針様式第1号(第6面)のとおり                               |
| 備 考                                | 当社の地球温暖化対策の取組みについては、ホームページ(RCレポート)にて公表しています。<br><a href="http://www.pochem.co.jp/jpe/rc/rc-report.html">http://www.pochem.co.jp/jpe/rc/rc-report.html</a> |

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。  
2 のある欄は、該当する 内にレ印を記載してください。  
3 計画書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。  
4 印の欄は記入しないでください。  
5 氏名(法人にあっては、その代表者)を記載し、押印することに代えて、本人(法人にあっては、その代表者)が署名することができます。

## 事業活動地球温暖化対策計画

### 1 温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針

#### 1. 事業者としての方針 ( R C レポート 2010 に記載 )

日本ポリエチレンでは、環境・安全に関する理念や方針を次のように定めています。

##### 環境・安全に関する方針

1. 事故・災害のゼロ目標
2. 地域環境保全・地球環境保護の推進
3. 省資源・省エネルギーの推進
4. 廃棄物の排出削減とリサイクルの推進
5. 化学物質の適正管理の推進
6. 「環境・安全」のための研究開発、技術開発、品質保証
7. 製品情報の収集と提供
8. 社会からの信頼向上

##### 地球温暖化対策

1997年に、CO<sub>2</sub>などの地球温暖化ガスの削減が盛り込まれた京都議定書が採択され、2002年に日本もこれを批准しました。日本ポリエチレンもこれを受け諸活動を行っています。

##### 省エネ活動

日本ポリエチレンでは、地球温暖化対策 へ向けた経団連の自主行動計画の一環として、日本化学工業協会 (以下「日化協」と略す) を中心とする化学業界の自主行動計画に参加しています。日本ポリエチレンの自主行動計画の目標は、09年度に「2012年までにエネルギー原単位を1990年比で13%削減」をクリアーすることとしました

「エネルギー原単位」、「CO<sub>2</sub>排出量の削減」共に年 1 % 原単位向上目標

#### 2. 川崎工場の基本方針

「安全、安定、安心運転の追求と R C の徹底」の基本方針の基に  
環境への適切な対応として

- ・エネルギー原単位削減目標 1 % / 年
- ・改正環境法令への迅速・確実な対応

### 2 温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制

日本ポリエチレン社内体制



## 3 温室効果ガスの排出の量の削減目標等(第1号、第2号、第4号該当者等)

## (1) 温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量

## ア 基準排出量と目標排出量

| 基準年度  | 平成21年度  | 目標年度  | 平成24年度  |
|-------|---|-------|---|
| 基準排出量 | (実) 110,102 t-<br>(調) 105,802 CO <sub>2</sub> | 目標排出量 | (実) 106,831 t-<br>(調) 102,629 CO <sub>2</sub> |
| 削減率   | (実) 3.0 %<br>(調) 3.0                          | 削減量   | (実) 3,271 t-<br>(調) 3,173 CO <sub>2</sub>     |

## イ 基準排出量原単位等と目標排出量原単位等

| 原単位の活動量                           | 生産数量   | 単 位    | t-CO <sub>2</sub> /t |
|-----------------------------------|--------|--------|----------------------|
| 基準年度の値                            | 0.3035 | 目標年度の値 | 0.2945               |
| 削減率                               | 3.0 %  |        |                      |
| 延床面積、生産数量<br>以外の原単位を使用<br>した場合の理由 |        |        |                      |

## ウ 目標設定に関する考え方

|  |
|--|
| <p>温室効果ガスの排出原単位の削減を図るため、排出量原単位の値を年平均で1%削減する事を前提に目標を設定した。</p> <p>又、設備の省エネ化という事で、南地区において電気設備(変圧器)更新計画が挙がっており、更新に併せて高効率型に変更していく予定である。</p> |
|--|

## (2) 温室効果ガスの排出の量の削減目標(全社目標)

|   |
|---|
| <p>省エネ活動</p> <p>日本ポリエチレンでは、地球温暖化対策へ向けた経団連の自主行動計画の一環として、日本化学工業協会(以下「日化協」と略す)を中心とする化学業界の自主行動計画に参加しています。</p> <p>日本ポリエチレンの自主行動計画の目標は、09年度に「2012までにエネルギー原単位を1990年比で13%削減」をクリアーすることとしました</p> <p>「エネルギー原単位」、「CO<sub>2</sub>排出量の削減」共に年1%原単位向上目標</p> |
|---|

5 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項

( 1 ) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の内容

|  |   |
|--|---|
| <p>事業所等に係る温室効果ガスの排出の量の削減を達成するための具体的措置</p> <p>(第 1 号、第 2 号、第 4 号該当者等)</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 組織体制</li> </ul> <p>様式第 1 号「温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制」に記した通り、社内体制（本社・川崎工場他）を整備し、情報交換を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 省エネ関係設備投資</li> </ul> <p>社内中長期設備投資計画策定時、省エネ関係案件も積極的に考慮に入れ CO2削減の努力に努める。（例：変圧器更新時には高効率型へ更新実施）</p> <p>又、小規模ではあるが、工場内照明の白熱灯から水銀灯、蛍光灯への更新やスチームトラップのタイプ変更を定期的に行い省エネに努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事務所の昼休み照明管理</li> </ul> <p>事務所についても、昼休み中は照明を切り、省エネに努める</p> |
| <p>自動車に係る温室効果ガスの排出の量の削減を達成するための具体的措置</p> <p>(第 3 号該当者等)</p>              |   |

(2) 再生可能エネルギー源等の利用計画及び前年度末における利用実績

ア 再生可能エネルギー源等の利用に係る考え方

設備投資における合理性を検討し、現在の時点では予定無し

イ 再生可能エネルギー源等の利用計画及び利用実績

| 設備等の種類 | 概要(規模、導入場所、性能等) | 導入年度 | 備考 |
|--------|-----------------|------|----|
|        |                 |      |    |
|        |                 |      |    |
|        |                 |      |    |
|        |                 |      |    |
|        |                 |      |    |
|        |                 |      |    |

ウ 再生可能エネルギー源等の価値の保有計画及び保有実績

| 種類 | 概要(規模、場所等) | 保有年度 | 備考 |
|----|------------|------|----|
|    |            |      |    |
|    |            |      |    |
|    |            |      |    |
|    |            |      |    |
|    |            |      |    |
|    |            |      |    |

(3) 基準年度の末日までに完了した主な対策内容

- ・変電所変圧器更新による高効率化(南/浮島地区 低密度ポリエチレン製造装置:H21)
- ・川崎スチームネット(東京電力火力発電所発生蒸気共同事業)による蒸気高効率化  
(南/浮島地区 高密度ポリエチレン製造装置:H21)

## 6 他者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項

## ・物流での取組み

製品輸送の一部をモーダルシフトによるCO2削減：

製品輸送の一部を、トラック輸送から船輸送又は鉄道輸送に切替え、CO2排出を削減する

|                         |             |
|-------------------------|-------------|
| トラック輸送から船輸送によるCO2削減予想量  | 153 t-CO2/年 |
| トラック輸送から鉄道輸送によるCO2削減予想量 | 41 t-CO2/年  |
| モーダルシフトによるCO2排出削減予想量合計  | 194 t-CO2/年 |

## 7 その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項

- 1) バルクコンテナ輸送によるCO2削減：従来の1ト入りバッグや25kg紙袋での納入を、16トのバルクコンテナ輸送に切替え、輸送単位量を上げる事によりCO2の削減に取り組み中。
- 2) 川崎市エコ運搬制度による環境負荷低減への取組み実施

様式第1号

(第7面)

8 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績

(1) 事業者単位

ア 第1号、第2号、第4号該当者等

|     |         |                   |
|-----|---------|-------------------|
| (実) | 110,102 | t-CO <sub>2</sub> |
| (調) | 105,802 |                   |

イ 第3号該当者等

|  |  |                   |
|--|--|-------------------|
|  |  | t-CO <sub>2</sub> |
|--|--|-------------------|

(2) 事業所等单位(第1号、第2号該当者等)

ア 年間の原油換算I礼ギ'-使用量が1,500kl以上の事業所の一覧

| 事業所の名称                      | 事業所の所在地           | 日本標準産業分類<br>細分類番号 | 事業所に係る事<br>業の名称 | 温室効果ガス<br>の排出の量          |
|-----------------------------|-------------------|-------------------|-----------------|--------------------------|
| 日本ポリエチレン株式会<br>社 川崎工場(南・浮島) | 川崎市川崎区千鳥<br>町3番1号 | 1635              | プラスチック製造<br>業   | 84,202 t-CO <sub>2</sub> |
| 日本ポリエチレン株式会<br>社 川崎工場(千鳥)   | 川崎市川崎区千鳥<br>町3番1号 | 1635              | プラスチック製造<br>業   | 25,900 t-CO <sub>2</sub> |
|                             |                   |                   |                 | t-CO <sub>2</sub>        |
|                             |                   |                   |                 | t-CO <sub>2</sub>        |

イ 年間の原油換算I礼ギ'-使用量が原油換算で500kl以上1,500kl未満の事業所の一覧

| 事業所の名称 | 事業所の所在地 | 日本標準産業分類<br>細分類番号 | 事業所に係る事<br>業の名称 | 温室効果ガス<br>の排出の量   |
|--------|---------|-------------------|-----------------|-------------------|
|        |         |                   |                 | t-CO <sub>2</sub> |
|        |         |                   |                 | t-CO <sub>2</sub> |
|        |         |                   |                 | t-CO <sub>2</sub> |
|        |         |                   |                 | t-CO <sub>2</sub> |

ウ 年間の原油換算I礼ギ'-使用量が原油換算で500kl未満の事業所の一覧

| エネルギー使用量の規模  | 事業所数 |
|--------------|------|
| 400~500kl 未満 |      |
| 300~400kl 未満 |      |
| 200~300kl 未満 |      |
| 100~200kl 未満 |      |
| 100kl 未満     |      |

(3) 事業所等单位(第4号該当者等)

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量(二酸化炭素換算)が3,000t以上(二酸化炭素の場合はI礼ギ'-使用に伴い排出したものを除く。)の事業所の一覧

| 事業所の名称 | 事業所の所在地 | 日本標準産業分類<br>細分類番号 | 事業所に係る事<br>業の名称 | 温室効果ガス<br>の排出の量   |
|--------|---------|-------------------|-----------------|-------------------|
|        |         |                   |                 | t-CO <sub>2</sub> |
|        |         |                   |                 | t-CO <sub>2</sub> |
|        |         |                   |                 | t-CO <sub>2</sub> |
|        |         |                   |                 | t-CO <sub>2</sub> |

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量(二酸化炭素換算)が3,000t未満(二酸化炭素の場合はI礼ギ'-使用に伴い排出したものを除く。)の事業所の数

|      |  |
|------|--|
| 事業所数 |  |
|------|--|